

保護者学習会を実施しています。

昨年度は、本校の非常勤講師である言語聴覚士 古山慎治先生に、『コミュニケーションや見通し行動を育む保護者・支援者のかかわり方』をテーマに講演していただきました。参加者からは多くの質問が寄せられ、相談支援部便りを通して全校の保護者の皆さんにお伝えしています。今年度も引き続き掲載していく予定です。

Q1：洗濯物を干すことができるのですが、雨の日でも干す（濡れるので、やらないでと伝えることが難しい。）等、やらないでほしいことがうまく伝わりません。

A1：やらないでほしいこと、つまり「✖」を伝える際には、その反対の「○」である望ましい行動を具体的に伝えることが大切です。「✖」を言われるだけでは何をどうすればよいかわからないからです。☞ 続きは相談支援部便り 12月号をご覧ください。

Q2：毎日「あいうえお」と言う練習は発語に効果的でしょうか？

A2：母音やま行・ぱ行・ば行は、口形模倣がしやすい音と言えます。一方、か行・が行・た行・だ行・な行・ら行などは、マネのしにくい場合もあるため、練習が可能な発達段階であるか否か練習の仕方等について、言語聴覚士等によるアドバイスが望ましいと考えられます。☞ 続きは相談支援部便り 1月号をご覧ください。

Q3：発音が不明瞭で聞き取りにくいのですが、どうしたらよいでしょうか？

A3：頭で考えて口から出るまでの発音のプロセスは、川の上流から下流の流れに例えられます。頭で音の整理ができているのに口や舌がうまく使えずに、一部の音がゆがんでしまうのであれば下流の問題、そもそも頭の中で音できていないのであれば上流の問題と言えます。☞ 続きは相談支援部便り 2月号をご覧ください。

Q4：ことばが出ていないと、読み書きはもっと難しいでしょうか？

A4：ことばが出ていないからといって読み書きはもっとできない、という決めつけは禁物です。☞ 続きは相談支援部便り 3月号をご覧ください。